

JAとりで通信

第364号

2021年2月25日



発行 JAとりで総合医療センター 〒302-0022 茨城県取手市本郷 2-1-1 E-mail: toride@medical.email.ne.jp 発行人 富満 弘之
TEL 0297(74)5551 (代) URL http://www.toride-medical.or.jp/

コロナ禍での 厚生連看護部の 現状と今後の展望

参事役看護統轄管理部長
宮本 留美子



厚生連看護部は2018年4月に厚生連本所（水戸市）に看護統轄管理部長が設立され、看護統轄管理部長として6病院の看護の平準化、知識、技術の向上を進めてまいりました。また、「オール厚生連」のスローガンのもと厚生連看護部が一体となるよう意識統一を図っています。このような取り組みを始めた2年後、新型コロナウイルス感染症の対応が始まりました。

当初は毎日TV会議システムで7事業所の看護部長、副部長の朝のミーティングを行い注意点、問題点、物資のやり取りを含め情報の共有を行ってまいりました。この経験をもとに、現在も週1回欠かさず行っており、看護部として院内感染予防、職員の感染予防教育の情報共有を重点的に実施しながら各病院の診療機能を保っています。これは、6病院が意識統一でき、まさに「オール厚生連」となっていると考えています。

不安を抱えながら看護師も日々勤務しております。長期化しているコロナ対応に疲弊している職員も多くおり、コロナ対策については、引き続き感染予防の徹底、業務負担の軽減とメンタルサポートの充実が課題ととらえております。

新型コロナウイルス感染症の感染状況は、現在、世界各地で第3波が到来し、医療現場では大変深刻な影響を受け、今後はさらなる対応が必要とされています。

今後、質の高い医療・看護が提供できるように

厚生連看護部として一体となり今後も、質の高い医療・看護が維持、提供できるように進んでいきたいと思っております。

厚生連は公的医療機関として、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを行っています。ダイヤモンドプリンセス号の感染者受け入れから始まり、2021年1月現在延べ約400名の患者の治療・看護を行ってきました。第1波の際、院内感染が1病院で発生しましたが、迅速な対応で早期に収束に至りました。

コロナ受入れ病院だとして、誹謗中傷され傷ついたこともありましたが、しかしながら、それ以上に患者様、ご家族様、地域住民の皆様、地元企業各社からの感謝の言葉や手紙、支援物資等暖かいご支援が励みとなり、心の支えとなりました。新型コロナウイルス感染症収束の先が見えない中、

JA茨城厚生連看護部機関紙「つなぐ」。厚生連看護部の広報担当が編集発行しています。

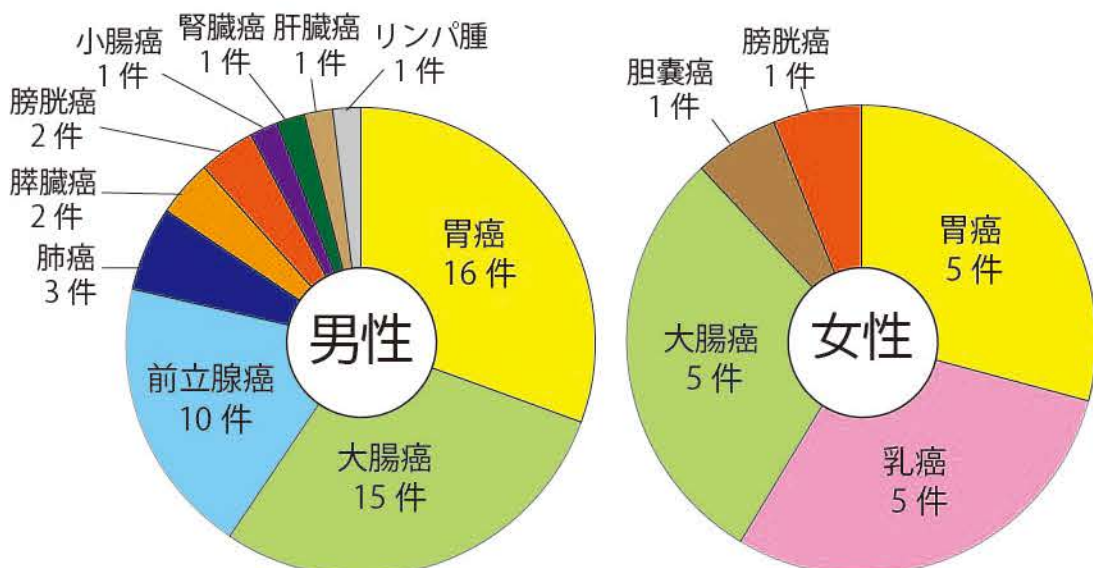


平成30年度の人間ドック受診結果

67名の方で癌が見つかりました

平成30年度に当院で人間ドックを受けられた方5,731名の中で、67名の方で癌が見つかり、男性では50名（受診者3,062名）、女性では17名（受診者2,669名）です。男性では胃癌が最も多く、女性では胃癌、乳癌、大腸癌が同数でした。癌の早期発見、早期治療のために1年に1回は人間ドックを受診することをお勧めします。

臓器別の癌の件数



出前講座



転倒予防には「ぬ・か・づけ」

2月16日、井野公民館で出前講座が行われ、当院のリハビリテーション部の認定理学療法士（運動器）板垣昭宏が「転倒予防について」というテーマで講演しました。自宅内で転倒しやすい場所を「ぬ・か・づけ」と言い表し、「ぬ」はぬれている所、「か」は階段、段差、「づけ」は片づけられていない所と注意のポイントを紹介しました。またバランス能



出前講座の様子

力を向上させるための足の練習法なども動画でわかりやすく解説しました。

フレイル

第4回「フレイルと転倒」
リハビリテーション部
技師部長 豊田 和典



今回はフレイルの基準についてお話させていただきます。みなさんはいかがでしたでしょうか。現時点でフレイル状態であつても、早く気づき、正しく介入することで、元の健康な状態に戻せる可能性はありますので、これからしっかりと対策していきましょう。

65歳以上の要介護者が介護を必要になった主な原因の12.5%が「骨折・転倒」であり(表1)、要介護状態となることを予防するために、転倒予防も重要になってきます。

では、転倒はどのような場所で行われるのでしょうか。東京消防庁発表の令和元年のデータでは、転倒による救急搬送の73%以上を65歳以上の高齢者が占めており、約半数は住宅等の居住場所で発生しています。その中で最も多いのが「居

室・寝室」での転倒で、2位の「玄関・勝手口」の7倍以上の数字となっています(表1)。みなさんがイメージしやすい階段などでの転倒よりも、平らな場所歩きなれた場所で転倒してしまうことが多いのです。

転倒のリスク因子には、過去の転倒歴、筋力低下、バランス障害、歩行機能低下、視力障害、薬による影響といった個人の内的要因と、履物や滑りやすい床、暗い場所といった外的要因があります(表2)。

フレイルの基準である、「歩行速度の低下」「や」筋力低下」は転倒リスクにもつながっているのです。7年後の転倒発生率が、健康人で27%であったのに対し、身体的プレフレイルで33%、身体的フレイルで41%という報告もあり、フレイル状態にあることは、転倒する危険性が高い状態でもあります。フレイルによる身体機能低下により転倒を生じ、転倒しないようにと、外出機会や運動機会が減少し、さらなる身体機能低下によって転倒しやすくなる、要介護状態となる、負のスパイラル(表2)に陥ってしまいます。

この連鎖は断ち切らなければなりません。フレイルを予防することが転倒予防にもつながり、転倒・骨折によって要介護状態となることを予防し、健康寿命を延ばすことにもつながっていきます。

図2 フレイル・サイクル

(佐竹昭介：転倒リスク評価 - 基本チェックリスト - Geriatric Medicine 55(9):985-988, 2017より引用)

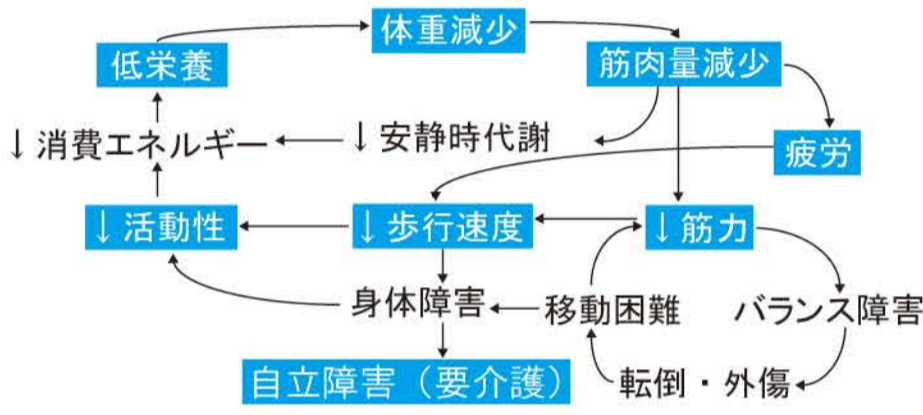


図1 介護が必要になった主な原因 (令和2年版高齢社会白書より改変)

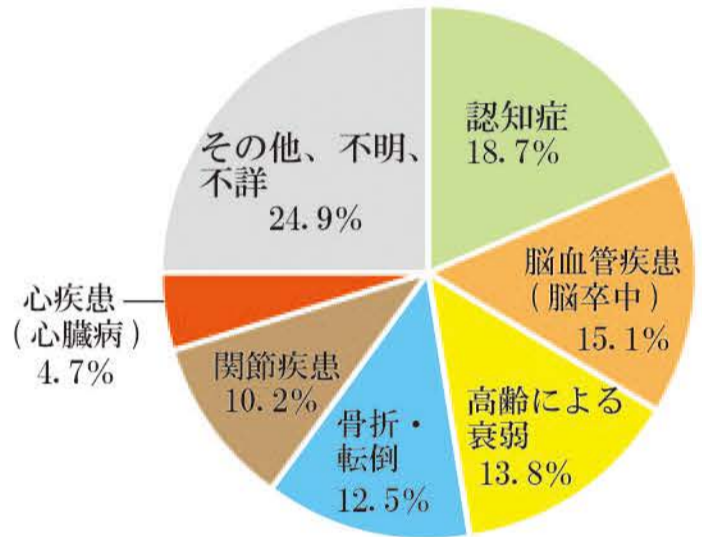


表2 転倒の原因

内的要因	外的要因
<ul style="list-style-type: none"> 転倒歴 最大筋力低下 運動速度の低下 反応時間の低下 感覚低下 バランス機能低下 疾患による影響 視覚、認知機能による影響 薬(睡眠薬、降圧薬、抗癌薬、など)による影響 	<ul style="list-style-type: none"> 1~2cmほどの室内段差(敷居) 滑りやすい床 履物(スリッパ、サンダル) つまずきやすい敷物 電気器具コード類 照明不良 戸口の踏み段 不慣れな環境 強い風

表1 高齢者の「ころぶ」事故の発生場所 (令和元年中)(東京消防庁ホームページより一部改変)

	事故発生場所	救急搬送人員
1位	居室・寝室	22,902人
2位	玄関・勝手口	3,187人
3位	廊下・縁側・通路	2,342人
4位	トイレ・洗面所	1,000人
5位	台所・調理場・ダイニング・食堂	898人

人の動き



翔



ペロ



元気



銀

我が家には4匹の猫と1匹の金魚がいます。金魚は夏祭りの金魚すくい出身、猫の銀は里親募集で引き取り、元気、ペロ、翔は保護猫出身です。時々、コウモリ・セミ・ネズミ・トカゲなどを得意気に運んできます。

翔は片眼がなくてもやんちゃです。仕事で疲れても、猫のモフモフと肉球に癒され、エサ代のために働く意欲を私に沸かせてくれるのです。

わたしの家族

(臨床検査部 藤井桂子)

採用(2021年1月)
湯浅美琴 言語聴覚士
砂田博文 放射線部